



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和2年1月8日

発行者 校長 芝田 智昭

No. 344 1月号

先を見据えて

令和2年が幕を開けました。2020東京オリンピック・パラリンピック開催の年だからでしょうか、いつもの正月より華やいだ雰囲気を感じます。

さて、学校には子どもたちの元気な声もどってきました。今年も一人ひとりの子が自分らしく輝けるよう、教職員一丸となって指導の充実に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、昨年同様のご理解・ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

「この時期になると、5年生のような5年生と、6年生に近い5年生が見えてきます。」今日の始業式で、このように子どもたちに切り出しました。年度初めは、4年生に近い5年生が多いわけですが、1学期・2学期と成長を続け、年を越して次の学年に近づいていきます。5年生だけでなくどの学年も同じで、3学期は、その学年相応の子と上の学年の意識が見える子が現れます。学年相応であればよいという見方もできますが、先を見据えてイメージし、態度につなげていこうとする意識をもっていると、成長は早くなると私は考えています。

ですから、3学期は全員が次の学年を見据え、4月からの新しい生活への“構え”をつくらなければなりません。私が考える構えとは、「心もち」「自覚」「覚悟」のようなもので、簡単に言えば次に向けた準備です。それでは、構えはどのようにすればつくることができるのでしょうか。その一番の方法は、次の学年の動きを実際に見たりこれまでの実践を思い出したりすることです。5年生であれば、卒業までの6年生の行動を見て、さらに、6年生が学校行事や委員会、クラブなどのときにしていたことを思い出すのです。いわゆるモデリングです。

3か月後、今の1年生は4月の入学式で新入生を迎え、2年生は中学年の仲間入りをし、新しい教科も始まります。3年生は代表委員会やクラブ活動に参加し、4年生は高学年となり学校を引っ張っていきます。5年生は最上級生として尾久西小の中心となり、6年生は中学校へ巣立ちます。その時のために、今日の始業式で子どもたちに対して「上の学年をよく観察して、次の学年の準備をしましょう。」と呼びかけました。

6年生に関しては、校内にモデルがないので自分で構えをつくることになりますが、今まで尾久西小を引っ張ってきてくれた子どもたちなので、きっとできると確信しています。

学校では次の学年に向けた準備を着実に進めてまいりますので、家庭・地域においても、先を見据えた声かけをしていただけると幸いです。